

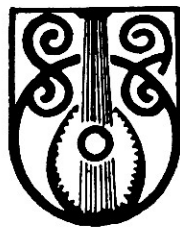
オルケストラ シンフォニカ 東京

第 48 回

# 定期演奏会

平成 19 年 4 月 10 日 (火) 午後 7:00 開演

第一生命ホール



# プログラム

## 第一部 指揮： 嶋 直 樹

1. 歌劇「魔笛」序曲 W. A. モーツァルト (S. ラニエリ編曲)  
(嶋 直樹補)
2. 弦楽五重奏曲より「メヌエット」 L. ボッケリーニ (嶋 直樹編曲)
3. カンタータ第208番よりアリア「羊たちは安らかに草を食み」  
     〃 第147番よりコラール「イエスは変わりなき我が喜び」  
     J. S. バッハ (嶋 直樹編曲)

## 第二部 指揮： 宮 本 皓 永

1. ユーモレスク 久保田 孝
2. 組曲「果物の舞曲」 武 井 守 成  
     I 葡萄のメヌエット II 桜んぼのポルカ III 柘榴のボレロ  
     IV 苺のパヴァーナ V オレンジのホタ
3. 組曲「鎌倉」 中 村 弘 明  
     I 禅寺の鐘 II 晩秋の山路 III 史都の幻想  
     IV 落日 (終曲)

## 第三部 指揮： 山 本 雅 三

1. プレクトラムー マンドリン賛歌 A. アマデイ
2. ヴェッキア セレナータ A. アマデイ
3. 天使の夢 A. ルビンシュタイン (武井守成編曲)
4. シンフォニア G. マネンテ (中野二郎編曲)

# 曲 目 解 説

## 第一部

### 歌劇「魔笛」序曲

ウオルガング・アマデウス・モーツァルト(S.ラエリ 編)  
(嶋 直樹 補)

W.A.モーツァルト(1756年～1791年)が最晩年の1791年に作曲したジグシュピール(歌芝居、現在では歌劇の一種とされている)で、当時オペラはイタリア語が中心でしたがこの「魔笛」はドイツ語で書かれています。モーツァルトは世界最大といわれる秘密結社「フリーメイソン」の会員であったことが知られていますがこの序曲にもその様々なシンボルが用いられているとのことです。物語の場面は時代不詳のエジプトで、妖僧に幽閉されている夜の女王の娘をエジプトの王子が救い出すというストーリー。女王の家来パパゲーノのアリア「俺は鳥刺し」が有名です。

### 弦楽五重奏曲 ホ長調 G275より第三楽章「メヌエット」

ルイジ・ボッケリーニ(嶋 直樹 編)

L.ボッケリーニ(1743年～1805年)はイタリア生まれの作曲家・チェロ奏者です。チェロ・コントラバス奏者だった父親からチェロを学び、後年はヨーロッパ中で華々しく演奏活動を行いスペインの宮廷に招かれて後半生を送りました。彼はチェロ協奏曲やチェロソナタなど250曲もの作品を残していますがその中でヴァイオリン2、ヴィオラ1、チェロ2という編成の弦楽五重奏曲を110曲書いており、今回演奏いたします「メヌエット」はこの中の1曲の第三楽章です。

### カンタータ 第208番「楽しき狩こそ我が悦び」BWV208より アリア「羊たちは安らかに草を食み」

### カンタータ 第147番「心と口と行いと生きざまは」BWV147より コラール「イエスは変わりなき我が喜び」

ヨハン・セバスティアン・バッハ(嶋 直樹 編)

カンタータとは本来「歌われる曲」という意味で合唱や独唱、また器楽合奏曲など数曲でできています。J.S.バッハ(1685年～1750年)は教会カンタータを200曲、世俗カンタータを16曲作曲しております。

1曲目の「狩のカンタータ」とも呼ばれる第208番は世俗カンタータにあたります。バッハが仕えていた領主を讃えるために作られ、このアリアは、「王国は穏やかで、そこでは良い羊飼(国王)が番をしているので羊たち(国民)は安心して草を食べている(暮らしている)」という歌詞になっています。以前NHK FM「朝のパロック」のオープニングに使われていました。原曲は2本のフルートがのどかな雰囲気を作り出しています。

2曲目のコラールは「主よ人の望みの喜びよ」という題でピアノ曲に編曲されて有名になりました。このカンタータ第147番は教会カンタータで聖母マリアがヨハネの母であるエリザベツを訪ねた祝日(待降節第四主日)のために書かれています。(嶋)

## 第二部

### ユーモレスク

久保田 孝

JMUによる関東地区団体演奏曲目調査では邦人作品の部で毎回上位に名前を出している久保田孝氏(1942年～ )の若い頃の作品 (op.8)です。「ユーモレスク」いう自由で少しおどけたという曲名を掲げていますが無駄のないすっきりとした、しかし深みのある曲想はその後に発表されている数々の作曲の予感を見てとれます。1960年(昭和35年)4月の作品です。

### 組曲「果物の舞曲」

武井守成

1948年(昭和23年)の作品 (op.111)です。この年の2月より取り掛かり全曲が完成したのは5月でした。同じ年の秋にop.113として“秋三題”を合唱付き(作詞高田三九三氏)で作曲されたのが最後の作品になります。この2曲を1949年(昭和24年)11月6日O.S.T.第79回定期演奏会にて作曲者自身の指揮により発表されました。が、その後12月12日O.S.T.の練習中、指揮台の上でたおれ14日に急逝されました。

この曲は作者のことばとして「戦争中、ギター曲のみを書いていた私は一昨年O.S.T.の復活後久しぶりにマンドリンのために書いた“微風”について今年この曲を作曲した。この曲はそれぞれの果物によせてその感じを舞曲としてあらわしたものである」とあります。

武井守成氏(1890～1949)は大正4年にO.S.T.(オーケストラ・シンフォニカ・タケイの略称)を創設し活動、昭和24年に没せられるまで、宮内省式部長官という官職のかたわら作曲や指揮、また関連文献の収集にと音楽活動と発展に尽力を続けられました。

私たちO.S.T.は現在「オーケストラ・シンフォニカ・東京」として、その流れを受け継いでいます。

### 組曲「鎌倉」

中村弘明

中村弘明氏(1947年～1992年)は青山学院大学在学中より鈴木静一氏に師事し、多くのマンドリン合奏曲を発表しており代表的な作品として組曲「夕鶴」が広く親しまれています。卒業後は早坂遼の名前で音楽制作会社を作りCMや企業のイメージソングなどを手掛けるなどと活躍をしていましたが1992年6月肺ガンのため45歳の若さでその生涯を閉じています。本曲は1971年(昭和46年)青山学院大学リズムマンドリーノ第10回定期演奏会にて演奏されています。

相模灘を前方に後ろ三方を山で囲まれた自然の砦・古都鎌倉に陸路で入るには七つある切り通しを越えなければなりません。鐘の音を聞きながら切り通しを過ぎると、そこには三代続いた源氏の面影が偲べれます。  
(宮本)

## 第三部

### プレクトラムーマンドリン賛歌

アマデオ・アマデー

A.アマデーは1866年イタリア、ロレートに生まれ、1935年トリノで亡くなった作曲家、管弦楽指揮者。最初は合唱指揮者、オルガニストでしたが、1889年軍楽隊長になり、退役後トリノに住み指揮者、教授、作曲家として活躍しました。作品は管弦楽曲、吹奏楽曲、合唱曲、マンドリン合奏曲、ピアノ曲、歌曲にわたり約500曲余あります。本曲は1906年イル・プレットロ誌の第1回作曲コンクールで金牌を受賞しました。トリオのある3部形式の行進曲で、アマデー独特のマンドリンの特徴を生かしたロマン的な美しさが表現されております。

## ヴェッキア セレナータ(古風なセレナーデ)

アマデオ・アマデイ

本曲は2つのマンドリンとギターの曲で、アマデイが連隊付吹奏楽団団長時代の作品です。1905年ボローニャのイル・コンチェルト誌に発表され、同誌主催の作曲コンクールで金牌を受賞しています。美しい優雅なメヌエットでマンドリンでなければ味わえない曲です。本日は中野二郎氏が小人数でも多人数でも楽しめるようマンドラ、マンド・チェロ、コントラバスを補足した楽譜を使用しております。

アマデイは多数のマンドリン曲を残しておりますが、マンドリンオーケストラ曲では「海の組曲」、「降誕祭の夜」、「吟遊詩人」などがあります。アマデイはマンドリン音楽の芸術性を一層高め、偉大な足跡をのこしました。

## 天使の夢

アントン・ルビンシュタイン(武井守成 編)

本曲はロシアの巨匠A.ルビンシュタイン(1829年～1894年)の作品10番のピアノ曲の24曲中の第22番目の作品を武井守成氏が昭和23年(1948年)11月逝去1年前に編曲した作品です。作品10番は「カメンヌイ・オストロフ」と名付けられておりますが、「カメンヌイ・オストロフ」とは「岩の島」の意味でロシアの首都ペテルスブルグを流れるネヴァ河の中洲の1つです。ここに作曲者のパトロンであったアンナ・パヴロワ大公妃の邸宅があり、そこに仕えた24人の女官の描写又は貴族社会の描写といわれております。22番目の天使の夢は恋人のアンナ・フリードボルグに捧げられました。

編曲者自身の指揮によるO.S.T.(オーケストラ・シンフォニカ・タケイ)の演奏は当時のNHKラジオ放送の「お休み番組」として毎晩放送の終わりに流されておりました。年配の方々には懐かしいメロディーと思います。晩年の編曲としては唯一の貴重な作品で、ピアノとマンドリンオーケストラの協奏曲のように作り上げた作品は原曲の味わいを、一層深めております。冒頭の3連音符はギターパートではじまり、その流れに乗ってマンドラテノールのメロディーがゆったりとした美しい河の流れを想わせます。途中から短調に変わり曲が激しく展開していきませんが、再び長調にもどり最後には安らかな平和な情景で終わります。

## シンフォニア

ジュゼッペ・マネンテ(中野二郎 編)

マネンテは1868年イタリア・ナポリの北東モルコーネに生まれ、1941年ローマで亡くなりました。マジェリアの聖ピエロ音楽学校、マドリッド音楽学校、ローマの聖チェテリア高等音楽学校を経て1889年歩兵第60連隊軍楽隊長に就任しております。

彼は軍楽隊長として活躍するかたわら作曲家としても活動し著名な作品を多数創出しております。本曲は吹奏楽として作曲され、ピストイアのプッチーニ音楽院少年吹奏楽団に贈られています。曲はト長調2分の2拍子の早いテンポで主題の演奏から始まりますが、前半の途中でハ長調アンダンテ3拍子に移りロマンティックな美しいメロディーがゆっくりと奏されます。次いで再び2分の2拍子アレグロに戻りますがト短調に転調して第2主題が奏されます。そして、次々と主題が展開されモチーフが何回も奏され、そのままのテンポでト長調の終曲に入り一気に終わります。本日はフルート、クラリネット、ピアノを加えて演奏いたします。

マネンテの吹奏楽曲をマンドリンに編曲した有名な作品には、「メリアの平原に立ちて」「降誕祭の夜」などがありますが、軍隊行進曲では「無線電信第1連隊」もよく演奏されます。マンドリンのオリジナル作品では「マンドリン芸術」「詩人の瞑想」など多数あります。op.446番のオペレッタ「白鳥の楽園」が最後の作品となりました。

(山本、石黒)

指揮者：○山本雅三 ○宮本皓永 嶋直樹

コンサートマスター：○本間輝樹

第一マンドリン：○本間輝樹 田島明子 城戸かほる 前田啓子  
嶋直樹 新谷文子 新居裕久 富田容子

第二マンドリン：諸井美津江 木村栄子 中沢敦子 ○藤田正美  
○後藤俊明 中村順子 平賀理恵子 小川洋子

マンドラテノール：○岩片順子 田中倭文子 滝田ふさ子 森下康子  
渡邊清 佐々木興治 深野靖夫

ギター：宮本紀子 戸次脩 黒崎恵美子 坂本富三郎  
平田陽一 門田雄二 佐竹眞弓 船崎薫  
城所敏雄 澤田行雄

リユートモデルノ：○宮本皓永 ○山本雅三

マンドチェロ：宮崎泰行 田村美恵子

マンドローネ：○家城孝治 石井啓之

コントラバス：佐藤正 ○石黒不二夫

フルート：・西村いづみ

クラリネット：・山崎泰子

ピアノ：・浦嶋晶子

打楽器：・中山航介 ・上原なな江

〔○——— 幹事〕  
〔●——— 賛助出演〕

オーケストラ シンフォニカ 東京 (OST)

連絡先：〒236-0057 横浜市金沢区能見台3-28-6 石黒不二夫

TEL&FAX 045-770-4806

ホームページ：<http://ishii164.net/~ost/>